

I 素晴らしい救い・和解。

「二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました」：16。

1. 「二つのものを一つのからだとして」。主は私達人間の人種、身分、職業、経済的な格差、学歴、能力、年齢等で差別を一切されず、主を信じる者達、両者を救い、キリストにつながる一つのからだ（教会）として下さいます。「ユダヤ人とギリシャ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです」（ローマ10：12）。神の救いのご目的は、一人一人が救われる事で終わりではなく、救われた一人一人が主と主の体である教会に結びつき、主の教会を共に建て上げる事です。だから私達が主にしっかりつながり、主の体である教会を共に建て上げる事は、神の大切な業に参加している事なのです。

2. 「十字架（私達の罪の為に主の十字架）によって神と和解させ」：16。神は愛と御目的をもって私達を造り、命を与えて下さいました。無意味に偶然に生まれて来た人はいません。ところが、私たち人間は、神に背き、敵対するようになってしまいました。しかし神は、私たち人間のほうが100%悪いにもかかわらず、神の方から大きな愛をもって和解の手を差し伸べておられるのです！※私達は、相手の方が最初に悪をし、関係が悪化し隔ての壁と敵意がある時、こちらの方から和解の手を差し伸べる事ができるでしょうか。簡単な事ではありません。「神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを負わせないで（主が十字架で私達の罪の責めを完全に負われたので）、和解のことばを私たちにゆだねられたのです」（Ⅱコリント5：19）。私達が自分の罪を認め主を信じ、神からの和解の御言葉を受け入れる時、神と和解が出来て、私達は新しくされます。神の一方的な愛で神と和解させていただき神から赦された愛をいただく人は、自分の力ではどうしても愛せなかった人とも和解をして行く愛と力を、心に住んでおられる平和の主キリスト（エペソ3：17）が与えて下さいます。相手をコントロールや強制はできません。しかし、平和の主は、まず私達の心を愛と赦しと和解の心へと変えて下さいます。相手が心を開き和解が成立するかどうかは神に委ねましょう。※証し。人には感情がありますから、時もあります。自分の分、その人の分、協力する分、神の分があります。「あなたがたは、自分に関することについては、できる限り（原語：もしできるなら、あなたの側では）、すべて人と平和を保ちなさい」（ローマ12：18）。心に住んでおられる平和の主、キリストが（エペソ3：17）その為の力と愛を与えて下さいます。

3. 「敵意を十字架によって滅ぼされました」：16。主は人の敵意で殺されましたが、主は十字架で敵意、敵対関係を葬り去られました。「葬り去られました」の原語：殺す、絶やす、根絶する。私達が、自分の罪のせいで持っていた神への敵意、敵対関係、人への敵意、敵対関係を、主は十字架で殺し、絶やし、葬り去って下さいました。その主を信じ主につながる時、十字架で完成された救い、恵み（敵意が葬り去られた和解）が、今も私達に与えられるのです！※主の救いを受けていない私の人生は？

II 十字架で完成された平和を今も宣べ伝えられるキリスト。

「それからキリストは来られて、遠くにいるあなたがた（異邦人、全世界の人々）に平和を宣べ、近くにいた人たち（ユダヤ人）にも平和を宣べられました」：17。ペンテコステの聖霊、主の弟子達を通して平和の福音を宣べ伝え続けておられる主。

1. 「また、キリストは来て」：ペンテコステの聖霊・主の弟子たちを通して来られて平和の福音を宣べられ続けている主。「遠くにいたあなたがたに平和を」：「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とみなさい」マタイ28：19。主は、主の弟子達、そして私達（主の体である教会）を通して平和の福音を宣べ

伝え続けておられるのです！私達に対しても！それぞれの人を通して私達に近づき、福音を語られた、今も語られている。このメッセージ中も。主の教会は主に用いられて平和の福音を伝える共同体です。パウロを用いて主がなさった事＝「私は、キリストが異邦人を従順にならせる為に、この私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かを話そうなどとはしません。キリストは、ことばと行いにより、さらにまた、御霊の力によって、それを成し遂げてくださいました。その結果、私は…キリストの福音をくまなく伝えました」ローマ15：18, 19。この2019年間、主の弟子達と、そして私達と共にいて主は、福音宣教を続けておられるのです。※伝道の証し。何という励ましでしょうか。私達だけで福音を伝えるのではないのです。主と共にいて今も働いておられるのです。「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。…見よ。わたしは、世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」マタイ28：19, 20。今、家族、知人、友人に福音を伝える私たちと共に主はおられるのです！福音宣教は平和の主が「来て」私たちと共に行われる業です。福音宣教、伝道において、今、キリストが私たちと共におられ、今、キリストが語っておられるのです。キリストは昔話の方ではなく、今、共におられる現実のお方なのです。

Ⅲ 神の恵みへの応答としての証し、福音宣教。

1. まず、神の先行する恵みを感謝しましょう。私達の罪の為に主の十字架により、敵意が葬り去られ、神と和解させて下さった事を感謝します。神との和解の恵みをいただいて、自分にとって難しい人とも和解できますように。相手を変える事は出来なくても、自分の側では内住の主の愛と力で赦し、和解の手を差し伸べる事が出来ますように。私達にはできませんが、私達の心に住んでおられる主にはおできになります。世の終わりまで、この素晴らしい主、和解の福音を今も働いておられる主と共に愛の行いと言葉を通して、伝えて行く者として下さい。「神の和解を受け入れなさい」Ⅱコリント5：20

2. まず主から愛をいただいて、家族、知人の名を揚げて祈り続け（「祈りノート」も用い）、愛を示す。

3. 礼拝や他の集会にお誘いする。新来者への歓迎の心。自分が初めて教会に行った時のことを思い出しましょう。※自己紹介と歓迎の言葉だけで十分です。※K GKの集会で同じ事が。歓迎の心は最高の伝道、愛です。私も歓迎される事は、嬉しいですし、主の愛で歓迎する事も喜びです。サマーキャンプ、K GK、ファミリーサロン、コンサート他にもお誘いし、歓迎しましょう。まず主が、先に私達を愛され歓迎し救って下さいました。その主の愛で歓迎する心のある教会に、主は、新しい方々を与えて下さいます。クリスチャン同士も歓迎しましょう。「どうか、聖徒にふさわしく、主にあって…歓迎し」ローマ16：2。歓迎し合う教会となりますように！歓迎の心は互いに伝わります。※証し

4. 礼拝のみことばの恵みを分かち合う。主の恵みの分かち合い教会となりますように！

5. 教会員の方からの希望がありまして、10月2日、午前の祈り会で、分かり易い十字架の絵を用いての個人伝道の実践（HB Iの授業でも行っています）を、私、堀田がさせていただきます。可能な方は、ご参加下さい。できるだけ分かり易く、行いたいと思います。励ましとなりますように。本日のみことば通り、これまで、キリストご自身が、私を、信徒の方々を用いて、福音を伝えて下さいました。北海道や関東の教会でも「十字架の絵」を用いて下さっています。

「宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか」ローマ10：14

「あなたがたのうちにある希望（イエス御自身、福音）について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしておきなさい」Ⅰペテロ3：15

「主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた」使徒16：14